

令和5年度一般選抜（B日程）における小論文出題意図及び解答例

国際経済学部

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

国際経済学部では、アドミッション・ポリシーで大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度として挙げた高等学校における学力の三要素、「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して学力評価を行うこととしています。小論文試験は、このうち主に「思考力、判断力、表現力」として、経済社会のさまざまな動きや変化に対する探究心を有し、自らの考えを論理的に表現し、わかりやすく伝えることができることを評価することを目的としています。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

本試験にて提示される問題文は、「経済協力開発機構 (OECD) OECD Regions and Cities at a Glance 2020」という、OECD 加盟諸国の地域や都市に関連するデータを一定のテーマ毎に国際比較し分析した報告書の一部である。この問題で取り上げたテーマは、「老年人口指数」である。

（意図）

問1については、65歳以上の人口数の増加により今後地域における医療サービスへの需要が増加すると見込まれる中、①本文の第1段落で指摘されているように労働人口数の縮小が税収の低下につながる可能性があり、医療サービスへの公的補助の財源をどう確保するか、②労働人口数の縮小により、地域の医療サービスに必要とされる人材の確保を如何に図っていくか、という問題を2点指摘することを求めている。

問2 1)については、老年人口指数について、①日本は大都市地域、大都市地域に近い地域、大都市地域から遠く離れた地域のいずれにおいてもOECD加盟国平均を上回っており、②その差は、大都市地域20.1%、大都市地域に近い地域26.6%、大都市地域から遠く離れた地域33.0%と大都市地域から離れるほど大きくなり、③大都市地域から遠く離れた地域と大都市地域の差は15.2%とOECD加盟国平均の2.4%を大きく上回っていることを指定された字数内で記述することを求めている。

2)については、フィンランド、スウェーデン、オランダ、ドイツ、スペイン、チリ、スイス、ポルトガル、メキシコ、ハンガリー、スロバキア、ベルギー、ポ

ーランドの13か国を挙げることを求めている。

問3 1)については、以下の例のように数式を用いて説明することを求めている。

老年人口指数 Z は本文にある定義から、

$$Z = U \div T \times 100 \quad \dots (1)$$

と表される。

一方、

$$X = T \div S \times 100 \text{ から}$$

$$T = X \times S \div 100 \quad \dots (2)$$

$$Y = U \div S \times 100 \text{ から}$$

$$U = Y \times S \div 100 \quad \dots (3)$$

(1) 式に (2) 式の T と (3) 式の U を代入すると、

$$Z = (Y \times S \div 100) \div (X \times S \div 100) \times 100$$

整理すると、

$$Z = Y \div X \times 100$$

となる。

2) については、図2に示された期間において、① Y は一貫して増加し、 X は一貫して減少し、② その結果、 $Y \div X$ は一貫して増加することとなり、③ 老年人口指数 $Z = Y \div X \times 100$ であるから、 Z も一貫して増加するという趣旨を指定された字数内で記述することを求めている。

(参考)

問2 1) 解答例

老年人口指数について、日本は大都市地域、大都市地域に近い地域、大都市地域から遠く離れた地域のいずれにおいてもOECD加盟国平均を上回っており、その差は、大都市地域で20.1%、大都市地域に近い地域で26.6%、大都市地域から遠く離れた地域で33.0%と大都市地域から離れるほど大きくなり、大都市地域から遠く離れた地域と大都市地域の差は15.2%とOECD加盟国平均の2.4%を大きく上回っている。

(198字)

問3 2) 解答例

図2に示された期間中、 Y は一貫して増加し、 X は一貫して減少し、増加する Y を減少する X で割った $Y \div X$ も一貫して増加することとなり、老年人口指数 $Z = Y \div X \times 100$ であるから、 Z も一貫して増加する。(96字)